

Le jour où le monde ne pourra plus nous nourrir



これから  
未来を生きるために  
知っておきたい  
テクノロジーのこと

# 世界が 食べられなくなる日

監督：ジャン＝ポール・ジョー 製作：ベアトリス・カミュラ・ジョー ナレーション：フィリップ・トレトン パーカッション：ドゥドウ・ニジャエ・ローズ  
(2012年/フランス/118分/原題：Tous Cobayes?)

配給・宣伝：アップリンク

協力：福島農民連、農民運動全国連合会、大地を守る会、生活クラブ生協、バイオ・マルシェの宅配、食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク、  
パルシステム生活協同組合連合会、ナチュラル・ハーモニー



“遺伝子組み換え”と“原子力”暴走するテクノロジー、  
その先にどんな世界が待っているのだろうか？

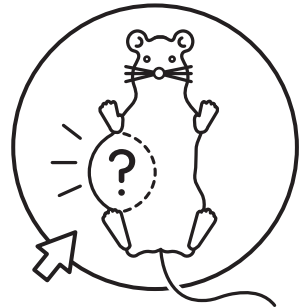
異例のロングランヒットを記録した『モンサントの不自然な食べもの』に続く、  
遺伝子組み換え食品の実態を追ったドキュメンタリー第2弾！（アップリンク配給）



## 遺伝子組み換え食品を食べ続けるとどうなるのか？ 極秘に進められた研究に密着！



2009年、フランスである実験が極秘に進められていた。ラットの一生（2年間）に“遺伝子組み換えトウモロコシを与え続ける”と、どんな影響が起こるのか？長年の疑問の答えが今明かされる。分子生物学者ジル＝エリック・セラリーニ教授が行った「世界的に重要な実験」はフランス、EUだけでなく世界中に大きな波紋を投げかけている。その研究結果にカメラは密着。



セラリーニ教授  
（カーン大学）

ジュース、ビスケット、冷凍食品、肉…、地球上の子供たちが、知らないうちに遺伝子組み換え食品を口にしています。スーパーに並ぶ加工食品の80%に、遺伝子組み換え作物が混在しているのです。私たちはどんな未来を選ぶか考えなくてはなりません。（本編より）

GM  
実は、遺伝子組み換え  
食品輸入大国の日本。

日本はトウモロコシの世界最大の輸入国で、その量は年間1600万トン。約9割がアメリカ産で、アメリカのトウモロコシは88%がGM品種です（2011年USDA調べ）。主に家畜の飼料をはじめ、食用油、コーンスターチなどの加工食品の原料に使われています。



## “遺伝子組み換え”と“原子力” いのちの根幹を脅かす二つのテクノロジーの意外な共通点



遺伝子組み換え作物の影響と同時に描かれるのが“原発がある風景”。

世界第2位の原発保有数58基が稼働中で常にリスクと隣り合わせのフランスと、福島第一原発事故以降の日本。その地に住む農家がどのような影響を受けたのか。



『未来の食卓』『セヴンの地球のなおい方』で“食の重要性”を訴え続けるフランス人監督ジャン＝ポール・ジョーがカメラを向ける。

“遺伝子組み換え”と“原子力”、いのちの根幹を脅かす二つのテクノロジーの三つの意外な共通点。そして浮き彫りにされる不都合な真実とは？

